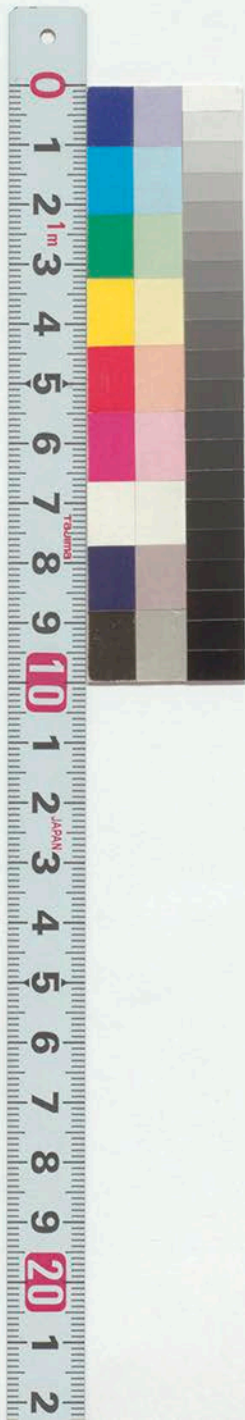


雅擬百人一首

全





進つて

八景

聖田

かきくさくさく

かきくさくさく

唐津夜雨

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく



はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき

はまき



此朱式部
はなはちと上門の
おなりのけつへん
幼と申すの帝の
とてはか石山まで
源氏物語に書け
う若はふの未殊ふ
まゝとてうろかり
るゆゑふいふ武部
のやを治りしとて
一代の秀秋あはさ
りてふやを治る
事世人の知る
ことなり



小野田
小野田仁明帝の時
は一門のやを治る
あつた人のやを治る
はなはちと上門の
おなりのけつへん
幼と申すの帝の
とてはか石山まで
源氏物語に書け
う若はふの未殊ふ
まゝとてうろかり
るゆゑふいふ武部
のやを治りしとて
一代の秀秋あはさ
りてふやを治る
事世人の知る
ことなり



源氏五十四帖

十娘香の事



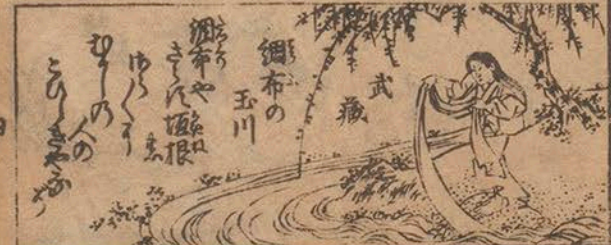
夫香はうらやま
なりとほひを
いふよりもの
大いなること
りそむいふこと
中なること
とふとく香道ふ
幸てそふとひろ
かふ香たふとふ
井とそふをうらや
組香は香ふとふ
他とふとふとふ



六五川の園
山城
井
玉川
山
あふん
山
の
つと
井
玉川



とも十娘のうらやま
いふこと
井とそふをうらや
組香は香ふとふ
他とふとふとふ



火舞 常 愛 蝶 胡 香 影 玉 女 乙



農の 妻の 子 助 耕 助 耕 助 耕



津 揚 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川 衣の玉川

頼 明 雲 海 風 花 合 繪 登 閑 生 遠 保 壽



士 三 三 三 三 三 三 三 三



奥 野 田 川 川 川 川 川 川 川 川

推 百人

○戦国三才
先づ人形あてて
て作のふき通と抱へ
又男媒をせめて
上よりわけて
へはと後一抱抱り
子へと後より
現のめいさし
時川流きて
うふ肩かた
あはれま
て二のひ
酒と加へ
上とて



おま
時わねを
の振居て
て嫁のお
あるの
あふま
人のま
をを播
のたの
先の花
やのま
小は
中三
平人



惟百六

ともあつてゐる
 道とて人を
 まゝに
 りまゝに
 人々の
 機嫌ふはせ
 工とて
 の事
 石け
 心よ
 日



只もねんく
はむふたひ
ぢり先をと守

小野小町

花乃色

2
3.25

子

ふりしる

粉

[illegible]

利便

逢坂乃關



師つらかりし
 根よりくちき
 い方々の憂
 魚の友ふると
 しの実ある
 と流る女に
 めを好む
 情をわづらふ
 憂とわづらふ



小其の親む
 心をておと
 くのあき
 たりけり
 花とれと女を
 かさうくも
 ちる事と
 とくは我と
 心をくも
 ときとけり
 移りまむ
 み常れを



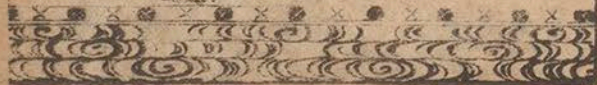
夫れをいふは
 けれは父の海
 止るは海
 ちるは海
 とるは海
 りるは海
 かさるは海
 舞のまを
 ゆみをとる
 するは海
 さるは海

中納言平
 立つての
 指禁
 のれ
 な
 今



幸ひくは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは

在東葉平
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは
 かくるは





いぬてめいふ
るたけで穴
小まゝ流満



おふあき
とあらじそん

るこきふ
おふあき
おふあき
おふあき



おふあき
おふあき
おふあき
おふあき

おふあき
おふあき
おふあき
おふあき



先づ公人の公ねと
人の言ふあつて
とまるともいふ
さやうなる時いふ
極むとでもいふ
いふととていふ
さやうといふと
くたさといふと
いふととていふ
いふといふと
いふといふと
いふといふと
いふといふと



と小島流禮傳
あきすちふちあつたれ
ハ各をあたふと書
たるべしあり

○先ず可替次第
人前之揚枝を
久事

一人おれやうにも
書をみよる

人々の心を導く

一、とく事
一、とく事

李性法師

今來と

いひな

明

うむけ

20

卷之四



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百



やうにとはふ事
茶のあてみ
とあらふ
水で思ふ
葉の陽せの春
に居る事



かんやのやすひで
文屋康秀
吹く
秋の
月
あじふふん

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

てうとほつらふ
月
茶のあてみ
とあらふ
水で思ふ
葉の陽せの春
に居る事



かんやのやすひで
文屋康秀
吹く
秋の
月
あじふふん

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

内をさるゆ
 人の女房どうぞ
 と云ふ事
 女房前のおま
 さんけねるもの
 昔ある人の家
 へおとこ入る
 昔ある人の家
 へおとこ入る
 昔ある人の家
 へおとこ入る
 昔ある人の家
 へおとこ入る



人の小刀どういぬ
 るまほまる
 人の小刀どういぬ
 るまほまる
 人の小刀どういぬ
 るまほまる
 人の小刀どういぬ
 るまほまる
 人の小刀どういぬ
 るまほまる



人の者運あるおて
 うさひ舞ふ
 人のさうなる
 ずるは勝事
 我とふとふとへ



A woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a man in traditional attire, possibly a scholar or official, looking down at a large open book he is holding. The background features stylized calligraphy in black ink on a light brown, textured paper. The calligraphy includes the characters "山" (mountain) and "里" (village), along with other smaller characters and symbols.



さうして
人の病つる實といふ
たゞを喰ふ
まへへのいふやうに成
る。即ち人の心
が、よりよ上なる事
を、
酒の中央にある
と云ふ事
さうして、
なめてゐる。
煙の出る所は、
隅か、
さく事



おんまのりの上座

すまの事

怪なくと別を大不

結句事

人々を以て其の類と爲す

小事

人の費やむと云ふ
状紙不中判を申

のり

國
様
の
お
り
の
り

○慶永長明のり

その意匠のあらはれ
たてしむるべき意匠のあらはれ

藤系典風

卷之六

亭

等

公
吐
納

才

友

紀貫之

人ち

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

あま

古
御

起

卷之五



納言がう石田石
 分るるすいふ石田
 てそれ余の山を
 足踏あふるを初ま
 ぐふむやうをま
 なる一より
 ○鞠をうさるる
 加ての外をうさるる
 とぬきとて居て
 物より初まぬ
 るふ様とて物な
 るるうさるる内
 石田あふる自は
 因ふるあふる



清原源季光

清原

小まてねまて
 るるやうをうさ
 初められと初め
 通るべしと初め
 へさるる
 ○石田あふる
 床の掛物に初め
 ば先中とてま
 右と左と初め
 先と初め
 又書と先と初め
 小まてねまて
 ○石田あふる
 先と初め



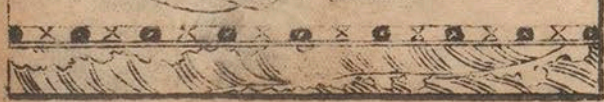
文成朝康

文成

相聞ふたさう日あ
 わせをいひまのわじ
 ろい一さうふれり
 へはさう小彼一さう
 いふふれり一さう
 小彼一さう
 ありさうふれり
 あり
 〇刀の柄取はあや
 だへつ法とあやさう
 二さうふれり
 の下はけいふれり
 わりさうふれり
 さまでふれり



事入先なるをいひ
 柄取さうとあやさう
 〇刀の柄取はあや
 だへつ法とあやさう
 二さうふれり
 の下はけいふれり
 わりさうふれり
 さまでふれり





といへば、
 たのめ、
 今、
 な、
 〇、
 なる年

きよ とうのりとすけ
清原元輔

製りされ

土

本
酒

中絶之教思

今日

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

七
 八
 九

あは

分

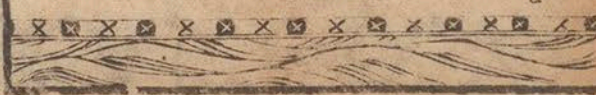


徳政へこそ對を
す。此中のまうり由
目より知たりのみ極
右のものと同すけし
又さきまうりにて
々の様ゆふは事々
ゆふより初次高利
は、まうり
ゆふと山國ふくち
る相ふあふふくも
まうり
ゆふとふくち
○勤自志と用ふか
る事
是れかりたるのゆが
の中へおれぬもの



十で取を我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて
 我左のふりて

曾祿好忠
 忠
 忠
 忠
 忠
 忠
 忠
 忠
 忠
 忠



事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり
 事、せざるのあり

志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる
 志はもる



二ふりてむす
 麻のくさき
 又文書いして馬の
 鳥のこをたけ
 又八幡湯がきり二ツ
 あるあるをいふて
 へん八幡と男の
 びの陽より陰の
 の陽より陰の
 陰の陽より陰の
 相違なれ



金指のくさき
 又八幡湯がきり二ツ
 あるあるをいふて
 へん八幡と男の
 びの陽より陰の
 の陽より陰の
 陰の陽より陰の
 相違なれ



千載一見の奇蹟
 是れ何れぞと云ふは山
 嶺の奇蹟なり
 海野山と云ふは海
 の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 陸の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 海の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 陸の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 海の奇蹟なり



下切石の奇蹟
 〇此の奇蹟は
 陸の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 海の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 陸の奇蹟なり
 〇此の奇蹟は
 海の奇蹟なり





て中よに入らるなり
 相方のいぢりやうに
 一人八人など半
 上へ入ても若う
 出づるはあま
 外居あり
 食ふふに



野に

二

あ

あ

あ

あ

あ

大納言公任

あ

あ

あ

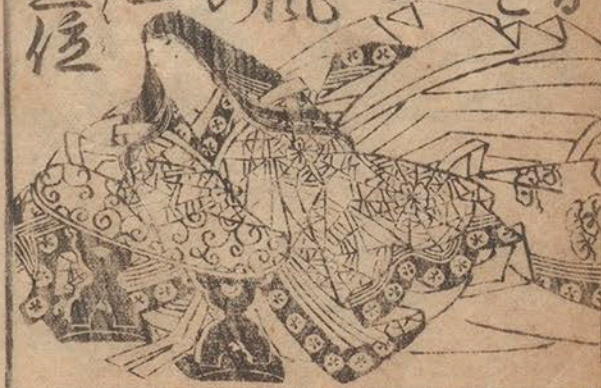
あ

あ



てゐるのひくひくお座
 体はよくてさうお座
 めもろの儀をふくさへ
 初陽の時も下を人
 の下、お座山けりさ
 本後さの常さふさ
 て一度おささささ
 ぶこさささささ
 内様さささお座
 上さかひのへささ
 ささささささ
 てあはさささ
 さささささ
 るれお座のへささ

やちささ
 つすさ
 人を
 ささ
 ふけ
 無さ
 有る
 大さ



あさめお座のひま
 下はささ
 ○萬福の時にさ
 ささ
 ささ
 ささ
 ささ



あさめ
 赤澤
 夜
 か
 月



事とていふは、
 又たの、
 も先づなりて、
 清き心なりと、
 てまゐるゝと、
 ○ぬきまゐるゝ
 初先、
 ねたりふら、
 けをまゐるゝ、
 〇ぬきまゐるゝ
 とれも、



大いなる

ナ

事とていふは、
 又たの、
 も先づなりて、
 清き心なりと、
 てまゐるゝと、
 ○ぬきまゐるゝ
 初先、
 ねたりふら、
 けをまゐるゝ、
 〇ぬきまゐるゝ
 とれも、



ナ

A woodblock print illustration of a seated figure, likely a deity or nobleman, wearing a dark robe and a tall, ornate hat. The figure is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy. The background is a light, textured surface.

[illegible]

先きより、元来、奥成
 の衆、て無事、いふ上
 運ひ、奥の衆、いふ上
 て、法とて、送り、付、
 右より、出、まか、と、
 下、折、紙、は、ま、か、
 る、後、ま、か、と、
 どう、つ、け、た、か、あ、の、
 り、あ、れ、合、の、心、あ、
 る、後、ま、か、と、
 後、ま、か、と、
 る、其、時、肉、も、み、ま、



わ、上、より、そ、肉、うち
 と、あ、る、あ、り、て、あ、
 ま、柄、も、あ、り、て、う、
 ま、あ、り、に、あ、り、
 ○ 其、時、の、供、へ、
 先、き、の、先、へ、
 の、事、一、番、
 数、も、あ、り、
 ま、あ、り、に、あ、り、
 荷、も、あ、り、
 馬、も、あ、り、
 洗、の、あ、り、



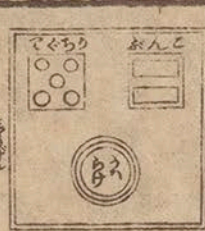
ひまふとふふ
 かへとふふ
 りとふふ
 ちとふふ
 あとふふ
 わとふふ
 まねとふふ
 あととふふ
 此方十五番蓋と宗
 その後れいも綱より
 たふふ
 〇あうと長持の
 の包やう
 足は紙をよふおはと



行
 百
 八

一
 二

おもてて二をもちて
 結へ返くゆま
 へうと引直して結
 へち力のあひもそと
 くかり
 常武の青を
 まうの屋



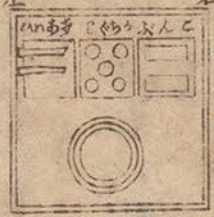
作のあはのねまの暇を
 して七毛一秋のそ



雅
 百
 八

一
 二

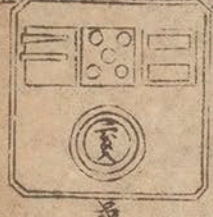
初申のあはれをいふに
 こんのまゝおこすべし
 初酒をうけて二えのむ
 へんじと九座と
 作はるのさうだん
 ○陣陣の時の書
 はやうの傳



源佐のむね
 人を
 初申の
 山おろし
 なけり
 のねもの



初申のあはれをいふに
 こんのまゝおこすべし
 初酒をうけて二えのむ
 へんじと九座と
 作はるのさうだん
 ○陣陣の時の書
 はやうの傳



命も
 あはれ
 好いね



雜記

揔

かきつゝふりんの下の下
も人の物より物も書
て事小からずは便之

A woodblock print illustration of a man in a patterned kimono, likely a samurai, with large Japanese calligraphy above him. The text includes '忠誠' (Chūsei) and '忠臣' (Chūjin).

五七九といふやどおも
 今像の教はふかべ
 ○市田のまゝ書かれ

孫

論之

賣相

[illegible]

不修今猶不
為曲事君也

四

常世不紅を打と云
衣長久困るを細
と云ふに計る云々
り、大工仙の云々

源道昌

陸路書

か
は
の

丁巳

子

江戸の美



九氣主胃

秋風

た



その後

卷之四

かきふさ

[illegible]

惟

一尺の湯の底に
をふくまう

松制 寺号

真衣に海之事
仕株山林の本

島端事
石橋より北に

速く南に
の下の海

月日

長六市物又入る
附切し里物主と主
る人への物あり



七夕の夜



後徳寺元大匠

郭公なるを

あが

むせとち

あ

月が

乃とてふ



七夕の庭の
露も水で
空を流る
露のまじ

年ごとに逢ふ
まじりて
あふ夜の
かまきり
まじりて

秋にこそ
まじりて
涙の細い
まじりて
まじりて

乃因法師

あひまひ

まじり

あふ

うね

なまじり

成る



あふの
あふの
あふの
あふの
あふの

あふの
あふの
あふの
あふの
あふの

あふの
あふの
あふの
あふの
あふの

皇太后家

世の中

あふ

あふ

あふ

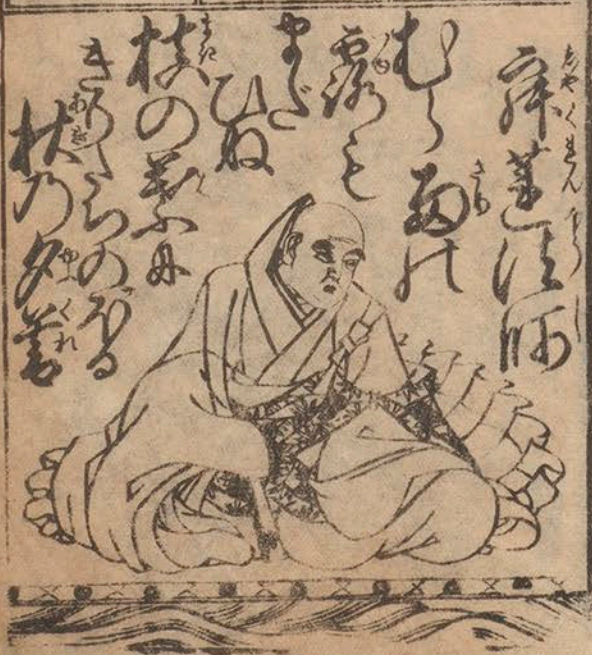
あふ



七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ	七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ	七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ
------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------



七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ	七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ	七ツの 子ぬ あまの 子ぬ なる 子ぬ なる 子ぬ
------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------



風おけ 秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき
-----------------------------	----------------------	----------------------	----------------------



秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき	秋の きり 志の をき
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------



いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた	いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた	いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた
--	--	--



後鳥羽院

五

いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた	いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた	いづれも まゝに ひまわり あつた あつた あつた
--	--	--



後鳥羽院

五



武田文永堂藏版發賣書目

四書 後藤點

全十冊

近世先哲叢談 松村操著

四

草字彙

六

古文孝經 大字

一

本朝畫史 狩野永納撰

五

清百家絕句

三

印籠譜

森玄黃齋
自画彫刻

二

風来山人春遊記

二

曉齋樂畫

二

風来六々部集

平賀源内著

四

漢畫獨樂譜

二

絶倒詩選

三

華山蘭竹譜

二

人相獨簪古

二

琢華堂畫譜

二

方鑒辨説

松浦琴鶴著

一

近世大家畫譜

二

八宅明鏡圖解
三元九星吉方圖解

松浦葵鶴著

一

北齋圖式

一

永代吉方圖解

松浦葵鶴著

一

早引漫畫

四

將棊精選

天野宗步著

三

捕花衣乃香

遠洲流

四

同手鑑

伊藤宗印著

三

捕花千筋乃麓

古流

三

同輝光

名人宗英手相

二

俳安政附合集

一

同精妙

一名不成百番

二

俳諧新五百題

二

同新選圖式

二

今人發句集

二

雅遊百人一首

一

詩法軌範

二

一新用文得所書

一

古詩韻範

三

雅俗女用文

一

和漢書籍專賣古本買入所

跡見学園短期大学図書館



0010459105

43423

東京本郷區本郷春木町三丁目十三番地

武田傳右衛門

同淺草區三好町七番地

大川 錠吉

書林白川

雜書百人一首
第千一冊
代価二、八〇〇円

近世大家畫譜

二

八宅明鏡圖解
三元九星吉方圖解

松浦葵鶴著

一

北齋圖式

一

永代吉方圖解

松浦葵鶴著

一

早引漫畫

四

將棊精選

天野宗步著

三

插花衣乃香

遠洲流

四

同手鑑

伊藤宗印著

三

插花千筋乃麓

古流

三

同輝光

名人宗英手相

二

俳安政附合集

一

同精妙

一名不成百番

二

俳諧新五百題

二

同新選圖式

二

今人發句集

二

雅遊百人一首

一

詩法軌範

二

一新用文得所書

一

古詩韻範

三

雅俗女用文

一

和漢書籍專賣古本買入所

發賣

43423

書林

東京本郷區本郷春木町三丁目三番地

武田傳右衛門

同淺草區三好町七番地

大川 錠吉

